



学校だより
第24号

応其の風

発行：平成28年1月26日
橋本市立応其小学校
橋本市高野口町名古屋 19-1
Tel：0736-42-2067

人は人を浴びて人になる

最近、ある雑誌を読んでいて、心に留まる言葉に出会いました。「人は人を浴びて人になる」という言葉です。人（生物学的なヒト）は、多くの人と出会い、交わり、いろいろな経験を繰り返しながら、少しずつ人（人格を持った人）に成長していく」と解釈できる言葉です。まさに、『人格の形成』をめざし『平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成』に取り組んでいる教育そのものを表した言葉だと言えます。（『』内の言葉は、教育基本法に示されている、教育の目標です。）

また、1月20日（水）、5年生が総合的な学習の時間の一環で、NHK和歌山放送局和歌浦アートキューブへ放送体験の校外学習に行った際に、素敵な出会いと学びをしたことが分かる作文に出会いました。その作文を紹介します。

総合的な学習で学べたこと

「周りの人はとってもやさしい。だから、ぼくもあんな人になりたい。」

今日、放送体験をするため、一般の電車、バスに乗って行くので、一般の人に少しお世話になります。

電車に乗るとき、やさしそうなおばさんが「いってらっしゃい」と声をかけてくれました。電車を乗り終えてから、バスに乗ります。少し小さめのバスです。ぼくは、友達の隣にすわっています。後ろに、仲の良さそうな老夫婦がすわっています。後ろがちょっとうるさい時、その人たちは笑いながら見てくれていました。いろいろ話しかけてくれたりしてスゴク楽しかったです。バスをおりる時「さようなら」とぼくがいうと、おじさんは「ハイ、さようなら」と言い、おばさんは手をふって

くれました。まるで年上の友達ができたかのようにでした。

テレビスタッフの人もスゴクやさしくしてくれました。

こんな人がもっとたくさんいたら、めっちゃ平和やろなと思いました。

また、あの人と会いたいです。

だから、ぼくもあんな人になりたいです。

（5年児童）

「人を浴びる」経験は、良いことも悪いこともありますが、この作文では、電車やバスの中、そしてNHKで素敵な大人と出会い、その大人の優しさや温もりをいっぱい感じることで、心が動かされた様子を読み取れます。このように、子どもが優しさや温もりをしっかりと受け留め、その気持ちを文章や行動で発信できるということは、日頃から優しさや温もりをいっぱい受けていて、優しさ貯金、温もり貯金ができていからでしょう。

また、このような経験をいっぱいすることで、この児童が最初と最後に「ぼくもあんな人になりたいです」と書いているように、自分の将来の大人像と重ね合わせて考えられるようになるのではないのでしょうか。まさに、「人は人を浴びて人になる」ための一つの経験だったと言えるのではないのでしょうか。

教室の学習を離れ、校外学習で得られた貴重な学びです。この作文を書いた児童だけではなく、他の児童も同様の気持ちを感じることができたと思います。広い気持ちで子どもたちと接していただいた皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

（今田 実）



応其小学校研究発表会

応其小学校では、「わかる喜びを味わい、自ら学ぶ児童の育成を目指して ～全員が楽しく「わかる・できる・のびる」授業づくり～」をテーマに、ここ3年間研究を行ってきました。この研究成果の一端を、和歌山県教育委員会学校教育局長 田村光穂 氏 をお招きして、2月3日（水）に発表会を開催します。主に、教職員を対象とした研究発表会ですが、応其小学校の様子を保護者や地域の方々にご覧いただける機会ですので、参加を希望される方は、応其小学校（42-2067）にご連絡ください。

■受付（13:15～13:45） ■公開授業（13:45～14:30） ■全体会・学校説明等（14:45～16:30）

■詳細（応其小学校 WEB ページ：<http://www10.schoolweb.ne.jp/weblog/data/hashimoto14/>）

地域の防災マップを作ろう 佳作受賞 2年目

昨年度から、「地域の実態を知り、よりよい街にしていこうとすること」、「危険なことに出会ったとき、自分で考えて行動できる力を身につけること」を目的に、地域の防災マップ作りに取り組んできました。この学習を進めるに当たり、地域の自主防災会の方々、区長さん、消防団の方々をはじめ、多くの方々にご支援をいただいています。このご支援がなければ、なかなか子どもたちだけでは深まりのあるまた、広がりのある学習にすることができません。本当にありがとうございます。

本年度も、6年生が10グループに分かれ、地域を歩いて情報収集を行いました。そこで得た情報をもとにして写真やイラストなどを使ってマップにまとめ、地域の方々にお越しいただきポスターセッションをしたり、校内で下級生に説明したりしてきました。

2年目と言うこともあり、昨年度作成したマップを参考にしたり、新たなアイデアを盛り込んだりしながら作成されたマップは、なかなかの力作でした。そのマップを、第12回「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」に応募しました。全国47都道府県の小学校等588団体から、2,506作品の応募があり、過去最高の参加団体数、

作品数だったようです。審査の結果、「ミニポリス」、「安全第一隊」、「応小っ子防災調査隊」の3グループが佳作100作品に選ばれました。

防災・防犯、そして交通安全に対する子どもたちの意識を高めていくためには、継続して取り組むことが大切だと考えています。今後とも、ご支援をよろしくお願い致します。

(↓ 応小っ子防災調査隊が作成したマップ)



ハートフルを調べよう

5年生が、総合的な学習の時間で「地域にある人に優しい施設、もの、人について調べ、自分たちにもできることを見つけて実践につなげる」という取組をしています。

6月からスタートしたこの取組「ハートフルを調べよう」は、子どもたちが日頃の生活の中で感じているハートフルな施設、もの、人について情報を出し合うこと、共有することから始め、その情報の中から調べたいところを絞りました。子どもたちが調査の対象としたのは次の10か所です。「ニチイ」「マリックス」「えびす」「ほっこりサロン」「伊藤クリニック」「ひだまりの里」「カネクク・たんぼぼ」「オークワ・ハッスル」「セブンイレブン付近」「アザレア付近」。

子どもたちの学習に快くご協力いただきまして、本当にありがとうございました。

1月20日(水)には、調査して見つけたことをみんなに伝える学習の一つとして、



放送体験：アシスタント

事業所でのインタビュー



放送体験：キャスター

NHK和歌山放送局和歌浦アートキューブに行き、自分たちがこの「ハートフルを調べよう」の取組をニュース番組として紹介するという体験に行ってきました。ニュースキャスター役が番組を進行し、リポーター役がこれまで調べてきた内容をレポート形式で紹介するという番組作りを行いました。

現在、子どもたちは調査してきたことをまとめている段階です。まとめた後、発表の場を設ける予定です。

この学習を通して、子どもたち自身がハートフルな行動について考え、日頃の生活の中で行動に移せるようになることを願っています。